



音死

全

中村俊定文庫
文庫 18
272



雪園步叙

自苞蕉衣以誹歌鳴一世以來天下靡然無
不習其風矣而信入曾良善盡其術初居
于信之敵郡後往于東都潛居于總之深川
在苞蕉講新道於武德之間實爲苞蕉腹
心也其姓曰河西周德亦敵人也效叔父之遺
教既窺蘊奧尚矣一日終叔父之故居得書於
壁中顏曰雪園步皆先哲之誹歌也周惠驚
求以爲天下奇宝也遂輯錄上梓且索叙于
予其志將以公之天下也不佞聞之若魚目數



孔子宅古經出于壁中遂大行于後世晉時吳郡得一石鼓張華用蜀相扣之聲聞數百里多顧又此書之在于壁中也石鼓也已古經也已今也聲被四表切至百世周德之勳不俾年周德亦此道之張華成遂叙其事以書于卷端

責溪題

寬保三癸亥孟冬朔



多長何素ハけりるそくうり
居汝志之々々朝々夕々々々
々々我多いおんや々々々々
おんぬれたてりやとらう々々
取ハあり々々々々性隠宗
汝好々々々々々々々々々々々
夜々々々々々々々々々々々

君古汝多けりや汝あ是々々々々々

芭蕉

深川ハ分々々々々々

米買り雪乃物々々々々々

其新買

雪乃ちちとけいけいけい

依水

其酒買

酒やういそくそくそく

苔翠

其岸買

岸つれりそくそくそく

泥芥

其糸買

雪よくふそくそくそく

夕菊

其豆腐買

雪よくふそくそくそく

友五

わいーうそくそくそくの友うそくそくそく
そくそくそくハそくそくそくそくそくそくそく
そくそくそくそくそくそくそくそくそくそく

芭蕉

杉風

曾良

元禄二仲春吟山孫著

芭蕉

うそくそくそくそくそくそくそくそく

あやハらうそくそくそくそくそく

曾良

わいのそくそくそくそくそくそくそく

吟山

多しんる方有

舟ハきりきりさるの惚えけ
つらふも口し名所りわすう
心はうきん主の童のついで
荻原りハきりきりしつらふも
つらふも口し名所りわすう
五月迄小袖の強も奴はつらふも
荻原りハきりきりしつらふも
油くきりきりきりきりきり
多しんる方有

此節
良節山良蕉山節蕉良

一張トアリ
人ノ名ナリ

年先をとり日まら勤勤
おきも夏ハ夏と替ふきりきり
桐乃とととととととととと
浪ハ波乃ふしつらふも
古きつらふも口し名所りわすう
大し遊ハきりきりきりきり
城小乃功高きりきりきりきり
起つらふも口し名所りわすう
りつらふも口し名所りわすう

嵐蘭蕉
山良蕉山良蕉山良

山風より吹く一雨驚く
山風より吹く一雨驚く
山風より吹く一雨驚く
山風より吹く一雨驚く
山風より吹く一雨驚く
山風より吹く一雨驚く
山風より吹く一雨驚く
山風より吹く一雨驚く
山風より吹く一雨驚く
山風より吹く一雨驚く

山 良 北 薺 蕉 蘭 嵐 竹 山 良 蕉 蘭

一門乃兼見春乃さ
一門乃兼見春乃さ
一門乃兼見春乃さ
一門乃兼見春乃さ
一門乃兼見春乃さ
一門乃兼見春乃さ
一門乃兼見春乃さ
一門乃兼見春乃さ
一門乃兼見春乃さ
一門乃兼見春乃さ

山 薺 竹

- 芭蕉ハ 曾良ハ 塔山ハ
- 此筋三 嵐蘭五 北薺二
- 嵐竹二

ふもよもや暮掃り
ふもよもや暮掃り
ふもよもや暮掃り
ふもよもや暮掃り
ふもよもや暮掃り
ふもよもや暮掃り
ふもよもや暮掃り
ふもよもや暮掃り
ふもよもや暮掃り
ふもよもや暮掃り

芭蕉 是堂 沾行

琴瑟書堂
梅の夜底花也
少頃
花形
馬の
去風
船の

曾良
杉風

素堂

室八嶋

系
入
隆
入
室
春

芭蕉

曾良

四年
其
此

一様はくは辞世のこゝろ 思忠
或人の遺傳

細道乃あやれ一人も夏乃月

紫霞余影碧桃亭は夏乃月

蘇州ふ人の夜乃夏乃月

吾は高き子に月乃雅乃月

村より市のうちや吹乃月

町中は川乃月

若くはまゝ居乃月

芭蕉
碧桃
芭蕉
芭蕉
碧桃

秋叶乃 惟乃

あつて乃 影乃

寂乃 髪乃

尋乃 乃 乃

乃 乃 乃

乃 乃 乃

乃 乃 乃

乃 乃 乃

乃 乃 乃

乃 乃 乃

芭蕉
碧桃
芭蕉
芭蕉
碧桃
芭蕉
碧桃
芭蕉
碧桃

千歳とて消へ思ふ杯のよき
錦人志くし時久く歳乃懐けし
錦補 玉のつゆり糸峰乃小車
夕久きれ玉乃懐けく春乃庭
玉のつゆり糸峰乃小車の中
酒吾久ハ公乃朽巾も佛とく利
粧人うへは此此れ雲如
歳武者乃以文此道何ふ多き
出乃透写し二十此れ以て
々中乃隆けしはく如くは

芭蕉 曾良 碧桃 朝暹 桃里 芭蕉 曾良 碧桃 朝暹 桃里

明日朝日可成

一谷乃糸もうきり 終也
乞余とも志くし 浮子乃切張り
洞此地産し玉も如く 玉如
昔此糸六指の泪や 涙も人
流人糸并し 結んてし
夕も又明日は 自中石乃上
糸とて 故下は 澁江白波
糸は糸は雲うき 見く 霧
奥乃比々 惟は 糸乃 女
糸は 比川 御衣 糸乃 女

曾良 朝暹 碧桃 芭蕉 二才 曾良 朝暹 秋務

千歳とて消へ思ふ杯のよき
錦人志くし時久く暮乃悵り
玉のつゆり糸峰乃小車
夕夕きり玉乃悵りきき乃庭
玉のつゆり糸峰乃小車の中
酒吾久ハ公乃朽巾も沸ちり刺
粘人うへハ此此ハ更ハ如
為武者乃以ハ此道何ふ多き
出乃透写し二十ハ此ハ其ハ
々中乃障りハハハハハハハハ

芭蕉
曾良
碧桃
朝暹
桃里
芭蕉
曾良
碧桃
朝暹
桃里

一筆乃糸もささり終也
乞余とも志くし時久く暮乃悵り
洞此地産しハハハハハハハハ
昔ハ糸ハ指の泪や流しハハハハ
流人糸ハ指の泪や流しハハハハ
今夕も又明日ハ有ハ石乃上
糸ハ指の泪や流しハハハハハハ
糸ハ指の泪や流しハハハハハハ
糸ハ指の泪や流しハハハハハハ
糸ハ指の泪や流しハハハハハハ
糸ハ指の泪や流しハハハハハハ

曾良
朝暹
碧桃
芭蕉
二寸
曾良
朝暹
秋務

日記
朝
日

此書意多新事乃悔々

桃李

奥州岩瀬郡相不伴在馬立

此流乃多し久也奥の田極し
 一よりこはれし我もふ事
 今也乃多し今も此石也
 羅し一舞乃多し生うさ
 一季し一舞乃多し川柳
 夕雀屋秋好し村々秋
 賤の女乃と院多佛し
 筆抄

芭蕉 等 良 船 蕉 良 船 蕉 良 船

世乃乃水しやと涼玉
 五のハ輝しも 後乃入也
 樟乃小枝し一葉は
 恨しハ 嬌々 細水名
 子相降山也 白髪
 酒學ハ軍地遠し
 秋代知し 身と相
 文乃水乃壁 窓破し
 此の山如乃 塔
 冬しと利 水長し

良 船 蕉 良 船 蕉 良 船

石田多野平少将亭

五月、月夜集名〜〜〜川

山寺〜〜舟板

瓜白〜〜〜舟

望山白〜〜舟

舟乃〜〜舟

徒多〜〜山

移移〜〜國乃

永樂乃古比〜〜

芭蕉

一栄

曾良

川水

蕉栄

蕉水

蕉良

蕉

後と合〜〜

寺は物乃名〜〜

瓜白〜〜双

巻と〜〜

好〜〜

舟〜〜

碓〜〜

衣の後〜〜

温〜〜

禱〜〜

蕉良

蕉水

蕉栄

蕉水

蕉良

蕉水

蕉

蕉

蕉

蕉

乃持之 甲斐乃一礼
其年小坂人言通下也
其年小坂人言通下也
其年小坂人言通下也
其年小坂人言通下也
其年小坂人言通下也
其年小坂人言通下也
其年小坂人言通下也
其年小坂人言通下也
其年小坂人言通下也

良水 蕉水 蕉水 蕉水 蕉水 蕉水 蕉水 蕉水

言系 瑞之 船乃 系合
其年小坂人言通下也
其年小坂人言通下也
其年小坂人言通下也
其年小坂人言通下也
其年小坂人言通下也
其年小坂人言通下也
其年小坂人言通下也
其年小坂人言通下也
其年小坂人言通下也

良水 蕉水 蕉水 蕉水 蕉水 蕉水 蕉水 蕉水

此乃系也 亦系也 亦系也

新在風流亭

法尋乃我君六——破之如帳
物先々々々々々々々々々々々
菊酒の流下流成り了流下馬
高ききききききききききき
北より南へ月より二千里隔たり
馬市連々々々々々々々々々
こけりて父の古き流より流へ
等心見々々々々々々々々々
梅より人よりすまやりし比唐靴子

風流 芭蕉 孤松 柳風 筆 蕉 流 良

さるは揚々々々々々々々々々
よ夜よ見よ爰よ古今の思ふ
浪乃高きききききききき
雪降下思杉ハ山に色々々々々
之秋踏為り 楮乃伊万
以亭——月心燈乃少社々々
舟洗々々々々々々々々々々
高き表乃山々々々々々々々々
陽々々々々々々々々々々々
樂々々々々々々々々々々々々

柳 本端 柳風 芭蕉 孤松 木端 蕉 流 良

果もさ息しうう地さや地
種多憶事さうハ事不立流
伊人の常風ははさうり
老俗乃い少多ほし人
或すさ入東西乃人
自う麻も啼らうも
お物さういも草移は月
秋文く冷さう人管乃
さきし海さう無波乃谷段
系移乃牛代乃夕乃さう

端風蕉柳流端良蕉柳風端

出城乃裾し見しか
奉し流乃者も流
さう流さう流
石のさ流とのさ
知し山乃乃乃
吟う流衣乃乃

管さう胡蝶さう

風流考 翁さう
孤松さう
曾良考 柳風考
執筆さう
如柳考 市端考

端風蕉柳流端良蕉柳風端

風流亭

水は川に流るるに柳の枝
空しく流るるに柳の枝
風流の的乃變去とて地帯

芭蕉
風流
夢良

學信亭

風の音も南に逝く言と川
小室乃軒に流るる白く
物もさうして流るる

芭蕉
柳風
水端

又縁二三月四日皇山に流るる
物もさうして流るる

吾も也言は流るる言の音
さうして人乃流るる言
川舟乃洞に流るる言
移乃流るる言
多水乃流るる言
水も南に流るる言
居眠る言
百里乃流るる言
山は流るる言
斧乃流るる言

芭蕉
露丸
夢良
新雪
珠如
架水
雪
蕉
鹿
良

歌う乃臨ふしり高きく
夏く思春ハ何ぞく鬼
古河所ハ幸くうく移法暮
桜く玄枝くう海く乃花
月見く川怒く水く恥く池
髪くふくく歌くはまはく露
ゆりくく大乃のく誰く子おく
的場乃くくく山吹
春山語くく七ツ乃年乃力石
河くくくく壱井のく

九蕉亨九蕉良九蕉九

足川乃くくくく也言
歌乃門くく二夜寐くく
う化消く夏ハ野中乃地乃く
書急くく山乃乃聲
乃雪ハ極乃極系乃上乃く
湯乃乃乃乃朝乃湯く
籠乃乃乃乃乃乃乃
くく初乃乃乃乃夜乃乃乃
月乃山乃乃乃乃乃乃乃
波乃乃乃乃乃乃乃乃

水良入露九水蕉九良入

報う法初は是年一 心古

吟子不とらく 行新は意

空人よりとせふ味、身ははく

いの勢もつきと定くの神

空乃りてらうと流れ多はちり

幕少あやうと乙多乃舞

芭蕉七 珠妙南都法輪寺 露九八

梨水五 曾良六 丹入二

飯通寺 釣雪六 龍 會覺一本坊

九 蕉 良 今 水

お是下少人跡一 後彦急不
いゝ多はあうと身は

冬は下一也山は出ぬ乃初萌子

輝下一車乃多は流少井丸

後機は雲のそう一 後 あく

国法去乃とて乃三々月

初影下一高し樹りき、梨子乃もて

路は妙機とけし 空

山の傍にたてうき建は帆をさふ

能 船 イニ又上り うき宝ハ心とてし 丸

蕉 重 曾 露 行 蕉 良

雲得此日每乃命一吟飽
弓注ろく下注新石乃元
赤借此母乃能急一極外うれ
華一海乃小田乃新初
注社主門乃板停寄乃ろり
叔父一もろろ一独眼見
衣ハ初ら之も同一寺注陸
宿乃也乃好交も注ろり
舞入乃衣見馬一可舞
も少注此廊ハ初一校も教

蕉行良九蕉行九良行蕉

金銀乃奏も一歩一打一乃ろり
奈良注都一夏腐也
以高一先也一も一也奈端
宿ち注ろり一乃化粉也
達一以一月注注注注注
交一也一反也一も一也
千々乃屋注注注注注
短半乃ろり一注注注注
身ハ蟻乃ちろり一も一也
ろり一も一也注注注注

蕉行良九蕉行九良行蕉

明
温
知
山
尼
衣
乃
長
艷
芭
露

良蕉九行良九蕉良

六月
涼
月
玉
琴
振
不

芭蕉
令道
不王
空連
曾良
任境
扇風

東...

菊
玉可成

出所陶田乃漆作也至亭々
あつし山吹陶うけ夕々々
海舟う磯う互々帆造
月出の蘭屋代々人酒行々
土々々竜うううううう
志々々壱ううううう
穀乃玉汝 張ふ葉乃毛
舟屋靴の移飼乃宿り冬の朱々
火の種々々々々々白髪々々々
海道ハ道もろくくく切々々々

芭蕉
不玉
曾良
蕉玉
良玉
蕉良

杉葉おろろ 萩隈乃古産
多佐乃ううう急毛玉々々々
岐乃神々々 下乃多乃
清佐ううあううううも悲乃
このせ乃ううもみうう入
朝けと久書帯幸に隆け々々
ふふも命と崎乃 乞食
わううう衣い散々々々々
おろろ乃始乃 麻断乃月
あうう乃塊うううう風

蕉玉 良玉 蕉良 蕉玉 良玉 蕉良

秋物多人の佳景なり對し

山も庭もくらしに入るや多葉の友
田や妻や中少も夏はほやうら

芭蕉 全

光のりり老堂

行乃春より衣ぬるれり老堂

曾良

言久角多無不病陰具つ良の桑門

二人形乃藤系はるく程路生るは良

人と之の程より言はれは良は多く

ぬくもやたうく乃宿乃むくは

本乃宿のせくみしは水乃る

芭蕉 曾良

白川湖

西より東より早苗も風乃る音

芭蕉

園子乃宿はくわらうし 雨ふゆは

はるはれは滝はうらつむくは

早苗も多葉ははたあうり

高可伸のまは常中乃て菴は路

隠き家や月より思衣は軒乃葉

芭蕉

稀よりほく乃多し 高き

常良

切ほくし山乃井の井はるく

曾良

畔はきしはく石乃柳

曾良

等雪深等志蘭七冷々々 慈心玉露

芭蕉高きものつらりん

秋草屋にわらわつるく 杉白川のあふ

くう川とまよふこと 海のほとり

雨晴々々 常乃香の 踏是う那

ソフと乃香の 啼けり

夕食 喰 鱈、知 雨、月 出、る

秋来りりりり 柳乃々々

別會

総良 子苗 一 包 玉 食 乞 人

曾良

桃雪

等躬

芭蕉

曾良

後考 秋乃々々 乃亦 冬乃々々

夏乃乃乃乃乃 秋乃々々 冬乃々々

別會

芥屋 一 又 習い 乃々々 乃々々 乃々々

市乃乃乃乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

々 雨 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

七月 乙 女 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

月 山 也 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

等躬

芭蕉

等躬

曾良

芭蕉

芭蕉

曾良

三日月也 雲下 雲の峰

六月十七日朝 象浮而降 夕止舟

浮世也

象浮也 舟也 西施 乃長
象浮也 舟也 西施 乃長
此のうゝ也 延世 乃長 乃長
象浮也 舟也 西施 乃長
伊川也 藤 乃長 乃長
夕晴也 乃長 乃長 乃長

羽黒ヨリ

芭蕉 曾良 不玉 仙真 曾良 芭蕉

高き 山乃香

松乃為 乃長 乃長

磯乃い 乃長 乃長

汐乃跡 乃長 乃長

割菴乃 乃長 乃長

ももむけの 乃長 乃長

乃長 乃長 乃長

言さ 乃長 乃長

うけらの 乃長 乃長

涼し 乃長 乃長

曾良

今曉

芭蕉

不玉

曾良

越後の玉生雲岫と云ふ所より佐渡の
崎へ海と十八里と云う初秋の落葉
ももろく流石少時も言ふとさきとハ
きくそは上の如く十是海と云ふ

荒海や佐渡より松よふ玉乃川

直江津より

芭蕉

文月や夕夕も常乃夜ふり川

芭蕉

新波のせいの柳乃一葉

左宗

朝霧より食より烟より分より

曾良

雲外小舟乃より七上より

眠鴻

破

新啼より山は是をりり

山竹

松乃平安より鐘より流石

布囊

夕乃より庭吹拂より乃乃

右雪

雪よりいより水

執筆

思ひうけぬ復は侍より多乃

栗

まぬの場も起も

良

数りのよみのはり

義年

寝より我より

蕉

あけも朝氣ハ月乃名を

栗

庭引より大乃

雪

砧のりてくはし新し息巻衣
きりた二人乃山中乃菴
花の吟長信々々々々々々々々々
蝶乃相おし中嶋場乃うけ
まら髪利良乃泪ししし
香ハハ海くし人くし乃文

田所

古今者師し致幸くせし使し
冬香ハハ比幼芽乃稿
踏外踊しし夢く布けきく

良蕉雪年棠鴻

右雪
曾良
芭蕉

山名十五句

種極く小枝し兼乃名以平
而乃あうりし水々ハ長峭き撃
喜山引高車多切うし地雪乃土
つじく鳥人到くし
金山也鏡下小砂地移し人
科乃むしし地岑臨し水菴
く地この百そし魚乃名地書く
人し世うし地し水書し
松柏蒼く霧水香すあうり

也良蕉雪右也蕉良雪

子也 壯也 了 後乃 在
後乃 老乃 杖也 也 下 礎石
往昔の月山 山 阿考
後乃 老乃 杖也 也 了
志々々々 志 志 志 志 志
培乃 孤村 志 志 志 志
後乃 流 志 志 志
加 志 志 志 志 志 志
後乃 志 志 志 志 志
視 志 志 志 志 志 志 入

蕉言 良 右 也 雪 蕉 也 右 蕉

牙 志 志 志 志 志 志 志 志

良

錢別

以 月 志 志 志 志 志 志 志

此竹

細川 志 志 志 志 志

茶 園 志 志 志 志 志 志 志

芭蕉

志 志 志 志 志 志 志 志

梅芝

憶 懷 乃 夕 志 志 志 志 志

更也

志 志 志 志 志 志 志

曾良

志 志 志 志 志 志 志

物引奇しく痛く新小一宮跡く若
世乃人そつとくはふ由又辛老う
男乃夢もさうく物終くはす
誠は乃新居くふの世女事し
伴若多言くくくくくくくくくく
返くくくくくくくくくくくくく
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一宮くく世女もく痛くくく
世女もく痛くくく

西濱

小鯛くく柳涼くくくくくく
くくくくくくくくくくくく

芭蕉

一笑遊音

露の聲

露聲也其聲芭蕉屋多思く

少切菴小つらふれく

秋くくくくくくくくくくく

芭蕉

張愁くくくくくくくくくく
や、くくくくくくくくくく
風の音つれもくくくくくく
浅急聲やゆきくくくく

つらくくくくくくくくくく

芭蕉

銀糸亭西中多

如き〜川人も引〜さ雨は新
心より下路乃引〜きも若新はつ由
う海も〜や引引は〜〜若新の露

芭蕉
曾良
北枝

小園行御のと此ソツまの野や若新

巧律さ〜ま整〜と〜〜〜〜し〜

〜この衣は〜若新〜若新の露

風乃返り〜河カ十條懸如ち〜

志何〜〜此名や小杉吹若新

芭蕉

山中湯

新新表入〜湯や世は〜

曾良

茶の扉不訪〜〜〜〜〜

巧〜〜〜〜〜

自〜〜〜〜〜

名〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

世に人を知るは事なほふもや
いかにしりれは事なほふもや
かきかきしりれは事なほふもや
かきかきしりれは事なほふもや
かきかきしりれは事なほふもや
かきかきしりれは事なほふもや
かきかきしりれは事なほふもや
かきかきしりれは事なほふもや
かきかきしりれは事なほふもや
かきかきしりれは事なほふもや

世に人を知るは事なほふもや

世に人を知るは事なほふもや

世に人を知るは事なほふもや
いかにしりれは事なほふもや
かきかきしりれは事なほふもや
かきかきしりれは事なほふもや
かきかきしりれは事なほふもや
かきかきしりれは事なほふもや
かきかきしりれは事なほふもや
かきかきしりれは事なほふもや
かきかきしりれは事なほふもや
かきかきしりれは事なほふもや

世に人を知るは事なほふもや

世に人を知るは事なほふもや

世に人を知るは事なほふもや

又文已
一
五
考

